

報道関係各位

株式会社ベネッセコーポレーション
代表取締役社長 福島 保

「第2回子ども生活実態基本調査」(小4生~高2生対象) 速報
将来は「自由にのんびり暮らしている」が6割
~「世界で活躍している」は2割、内向き志向の子どもたち~

株式会社ベネッセコーポレーション(本社:岡山市)の社内シンクタンク「Benesse 教育研究開発センター」では、2009年8~10月に、全国の小学4年生から高校2年生13,797名を対象にした、日常の生活実態や意識に関する調査を実施しました。この調査は2004年にも実施しており、過去5年間の子どもの変化をとらえることができます。

小4生~高2生までの子どもたちの生活実態、意識について、以下のことが明らかになりました。

1) 自分自身や人間関係、地域、社会などに対する満足度が向上している。

- 生活の満足度をたずねたところ、「自分が住んでいる地域」「学校の先生との関係」「自分の性格」「今の日本の社会」など、ほとんどの項目で肯定する比率が高まった。

2) 親子間での会話の頻度が高まり、「困ったときに相談にのる」も増加。

- 父親・母親との会話の頻度が高まった。とくに「友だちのこと」について母親と話す比率は、小学生で75.7%、中学生で66.4%、高校生で63.7%に達した。
- 「勉強を教えてくれる」「困ったときに相談にのってくれる」など、肯定的な親子のかかわりが増加した。一方で、「何でもすぐ口出しをする」などの否定的なかかわりは減少。「友だち親子」が増加している。

3) 友だち関係では「悩みごとを相談できる友だち」が増加し、「話を合わせる」男子が大きく増加。

- 悩みごとを相談できる友だちが「4人以上」いると回答する割合が、小学生で34.4%、中学生38.4%、高校生で43.8%となり、それぞれ5ポイント以上増えた。
- 男子で「仲間はずれにされないように話を合わせる」や「グループの仲間同士で固まっていたい」を肯定する割合が増え、小学生男子ではどちらも5割をこえた。「仲間内」を大切にする傾向がみられる。

4) 将来については、6割が「自由にのんびり暮らしている」と予想。「世界で活躍している」は2割以下。

- 40歳になったときにしていると思うことをたずねたところ、「親を大切にしている」「幸せになっている」は7割以上、「自由にのんびり暮らしている」は約6割が肯定した。しかし「世界で活躍している」を肯定した比率は2割を下回った。
- なりたい職業が「ある」と回答した子どもが5年前に比べ減少し、小学生58.0%(−5.4ポイント)、中学生54.2%(−7.8ポイント)、高校生50.6%(−16.2ポイント)で、特に高校生での減少が大きい。

この5年間の変化をみると、子ども自身や周囲の人との関係、地域・社会に対する満足度があがっていますが、将来は「世界で活躍している」と予想する子どもが2割を下回っています。現実的な将来像を描き、内向きで比較的狭い社会のなかでの生活に満足している子どもが多いようです。

以上のことから、これからの社会を担う子どもたちに対して、身近にいる大人や地域社会が子どもたちの視野を広げる機会を増やすなどの取り組みが必要と考えられます。

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社ベネッセコーポレーション 広報部 (担当:十河、坂本、西沢、濱野)
電話:042-356-0657 FAX:042-356-7301

■調査概要

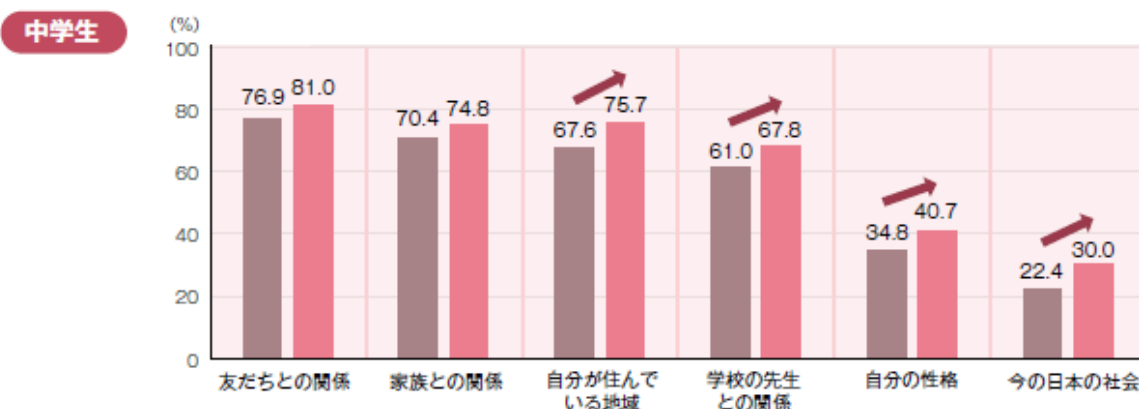
調査テーマ	小学生・中学生・高校生の生活に関する実態や意識をとらえる
調査方法	学校通しの質問紙による自記式調査
調査時期	第1回調査：2004年11月～12月 第2回調査：2009年8月～10月
調査対象	小学4年生～高校2年生 第1回：小学生4,240名、中学生4,550名、高校生6,051名 合計14,841名 第2回：小学生3,561名、中学生3,917名、高校生6,319名 合計13,797名 市区町村の人口規模および人口密度を考慮した有意抽出法。3地域区分[大都市（東京23区）、中都市、郡部]を設定してサンプルを抽出。協力校は2回ともほぼ同一。
調査項目	日ごろの生活（生活時間、放課後の生活など）／学習の様子／親子関係、友だち関係／将来展望／自分自身について／メディアとの接触／小さいころからの体験など

※本調査の速報版データは、次のURLをご参照ください。

http://benesse.jp/berd/center/open/report/kodomoseikatu_data/2009_soku/index.html

■主な調査結果

1)生活の満足度(経年比較、中学生)



注1) 「とても満足している」+「まあ満足している」の%。

注2) ここでは中学生のデータのみを示しているが、小学生・高校生でも同様の傾向がみられる。

2)親子関係

◎親との会話「友だちのことについて」(経年比較・学校段階別)

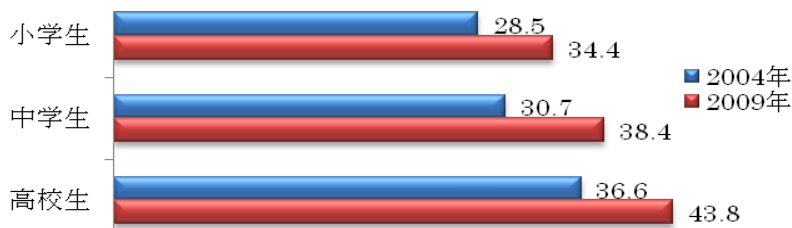


◎親とのかかわり(経年比較・学校段階別)

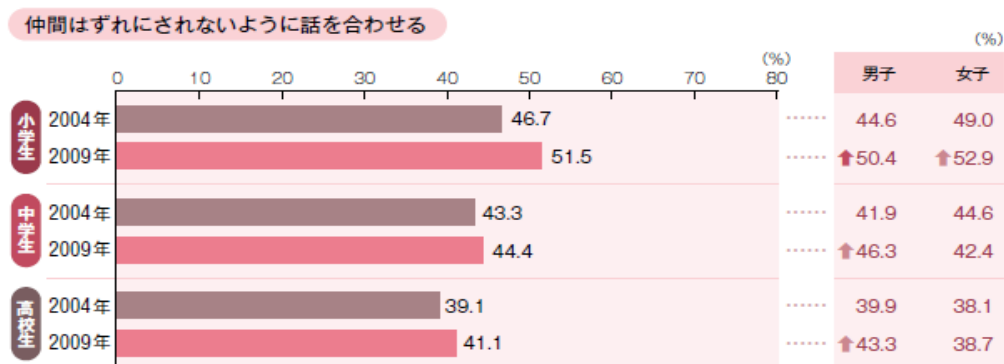


3) 友だち関係

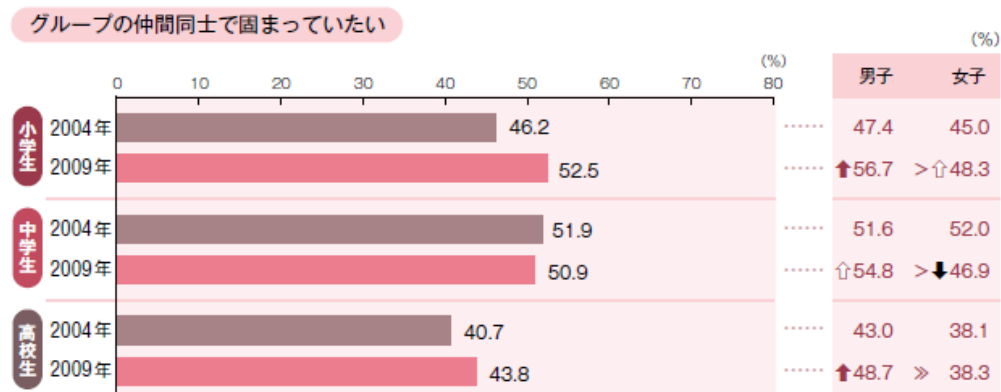
◎「悩みごとを相談できる友だち」の数が「4人以上」(経年比較・学校段階別)



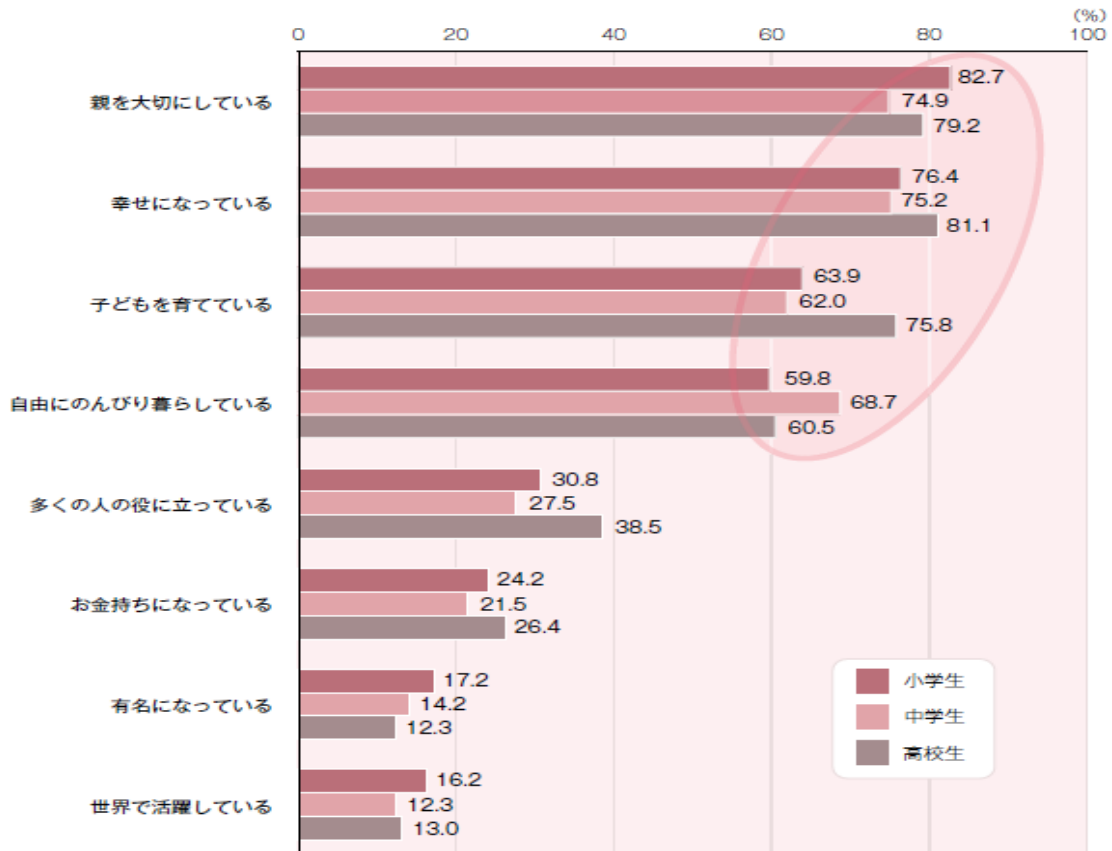
◎仲間はずれにされないように話を合わせる(経年比較・学校段階別・性別)



◎グループの仲間同士で固まっていたい(経年比較・学校段階別・性別)

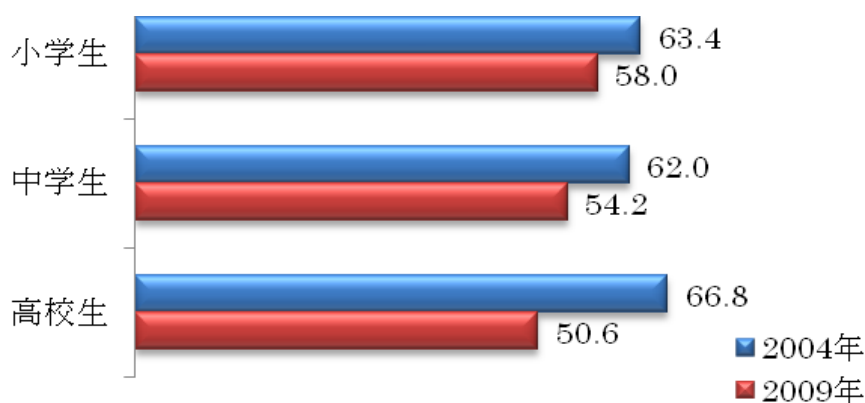


4) 将来像(学校段階別)



注1) 「とてもそう思う」+「まあそう思う」の%。
 注2) この質問項目は2009年調査のみでたずねている。

5) なりたい職業の有無(経年比較・学校段階別)



注) なりたい職業が「ある」と回答した%。

6) なりたい職業ランキングベスト10(学校段階別)

※ ↑ ↓ は2004年から5つ以上順位が変化した職業

◎小学生のなりたい職業ベスト10(性別)

小学生男子			小学生女子				
		%		%	順位 (2004年)		
1	野球選手	10.4	1	ケーキ屋さん・パティシエ	6.6	5	
2	サッカー選手	6.3	2	保育士・幼稚園の先生	6.4	1	
3	医師	2.0	3	芸能人(俳優・声優・お笑いタレントなど)	4.7	4	
4	研究者・大学教員	1.9	4	看護師	3.4	2	
4	大工	1.9	4	5 ↑ デザイナー・ファッションデザイナー	3.3	11	
4	ゲームクリエイター・ゲームプログラマー	1.9	7	6	医師	2.5	8
7 ↑	芸能人(俳優・声優・お笑いタレントなど)	1.6	14	7	理容師・美容師	2.3	7
8	バスケット選手	1.4	9	7 ↓	マンガ家・イラストレーター	2.3	2
9	調理師・コック	1.3	8	9	学校の先生	2.2	6
9	会社員	1.3	12	10	ペットショップ	1.8	12

◎中学生のなりたい職業ベスト10(性別)

中学生男子			中学生女子				
		%		%	順位 (2004年)		
1	野球選手	4.6	1	保育士・幼稚園の先生	9.5	1	
2	サッカー選手	3.4	2	2	芸能人(俳優・声優・お笑いタレントなど)	5.6	4
3 ↑	芸能人(俳優・声優・お笑いタレントなど)	1.7	8	3 ↑	ケーキ屋さん・パティシエ	3.5	8
4	学校の先生	1.6	3	4	看護師	2.9	2
5 ↑	調理師・コック	1.5	11	5	マンガ家・イラストレーター	2.8	3
6 ↑	研究者・大学教員	1.4	11	6	デザイナー・ファッションデザイナー	2.5	9
6	医師	1.4	4	7	動物の訓練士・飼育員	2.1	7
6	公務員(学校の先生・警察官などは除く)	1.4	5	7	理容師・美容師	2.1	5
9	ゲームクリエイター・ゲームプログラマー	1.1	8	9	学校の先生	1.8	6
10	コンピュータープログラマー・システムエンジニア	1.0	13	10 ↑	医師	1.2	圏外
10 ↑	大工	1.0	15				

◎高校生のなりたい職業ベスト10(性別)

高校生男子			高校生女子				
		%		%	順位 (2004年)		
1	学校の先生	4.7	1	保育士・幼稚園の先生	5.3	2	
2	公務員(学校の先生・警察官などは除く)	3.6	2	2	学校の先生	5.1	1
3	研究者・大学教員	2.7	7	3	看護師	4.8	3
4	医師	2.3	3	4	薬剤師	2.9	4
5 ↑	コンピュータープログラマー・システムエンジニア	1.7	12	5	理学療法士・臨床検査技師・歯科衛生士	2.4	5
6	警察官	1.4	6	6	公務員(学校の先生・警察官などは除く)	2.3	6
6	薬剤師	1.4	5	6	医師	2.3	7
8	芸能人(俳優・声優・お笑いタレントなど)	1.3	11	8	芸能人(俳優・声優・お笑いタレントなど)	1.5	12
9 ↓	理学療法士・臨床検査技師・歯科衛生士	1.1	4	9	栄養士	1.3	8
9	技術者・エンジニア	1.1	8	10	カウンセラー・臨床心理士	1.2	10
9	法律家(弁護士・裁判官・検察官)	1.1	9				

注) 将来なりたい職業名を具体的に書いてもらった結果を分類して作成した。明確な職業名に分類できないものは除外している。また、比率(%) はなりたい職業が「ない」と回答した人や無回答だった人も母数に含めている。

<ベネッセ教育研究開発センターの活動/WEBサイトについて>

ベネッセ教育研究開発センターでは、今後も、時代の変化に即したテーマで、子どもや教育に関する、調査や研究活動を行い、その結果を広く社会に開示することで、さまざまな方々との議論の輪を広げていきたいと考えています。ベネッセ教育研究開発センターのWEBサイト (<http://benesse.jp/berd/>) では、今回の調査データのほかにも、さまざまな独自調査のデータ・報告書を公開しています。